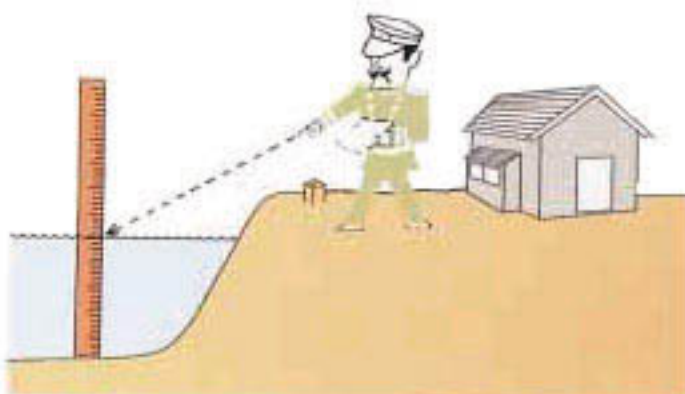


験潮の始まり

日本で最初の験潮場は、海中に量水標(物差し)を立てて、海水の高さを目で読みとっていました。

明治24年(1891)、全国6ヶ所に験潮場を設置し、本格的に観測を開始しました。



●明治27年(1894)に建てられた
湊壺験潮場

東京湾の平均海面はどのようにして決めたのか

東京湾の湊岸島で明治6年(1873)から明治12年(1879)まで、量水標を使って潮位を観測し、その平均によって東京湾の平均海面を求めました。



場所によって異なる平均海面

平均海面は、地形や海流などの関係で場所によって異なります。

日本周辺では、東京湾の平均海面を基準にすると、北海道・東北・北陸・山陰地方の日本海側が高く、関東・四国・九州地方の太平洋側が低くなっています。